

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
243	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol intake and its relationship with bone mineral density, falls, and fracture risk in older men. 老年男性におけるアルコール摂取と骨ミネラル密度、転倒、骨折のリスクとの関連	
<b>執筆者</b>	
Cawthon PM, Harrison SL, Barrett-Connor E, Fink HA, Cauley JA, Lewis CE, Orwoll ES, Cummings SR.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Am Geriatr Soc. 2006 Nov;54(11):1649-57.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、骨ミネラル密度、転倒、骨折、男性	
<b>要旨</b>	
<p><b>目的:</b> アルコール摂取、問題飲酒歴と骨ミネラル密度(以下 BMD)、転倒、骨折との関連を検討する。</p> <p><b>研究デザイン:</b> 断面研究および前向きコホート研究</p> <p><b>設定:</b> 6つのアメリカ合衆国の臨床センター</p> <p><b>対象者:</b> 65歳以上の 5,974 人の男性</p> <p><b>測定:</b> アルコール摂取と問題飲酒歴はベースライン時に測定された。追跡期間は転倒に関しては 1 年、骨折に関しては平均 3.65 年である。</p> <p><b>結果:</b> ベースライン前の摂取状況は、2,121 人(35.5%)は限定的なアルコール摂取(年 12 杯未満)、3,156 人(52.8%)は軽度のアルコール摂取(週 14 杯未満)、697 人(11.7%)は中程度・重度のアルコール摂取(週 14 杯以上)であった。1,001 人の男性(16.8%)はかつて問題飲酒の経験があった。多変量モデルにおいて、アルコール摂取が増加するにしたがって、臀部・脊柱部の BMD が上昇した。アルコール摂取の増加は臀部・脊柱部以外の骨折のリスクとは関連しなかった。ほとんど飲まない人と比較すると、軽度摂取する男性において 2 回以上の偶発的な転倒は減少したが、中程度・重度ではそうではなかった。(軽度摂取: 相対危険 0.77 (0.65-0.92)、中程度・重度: 相対危険 0.83 (0.63-1.10))。問題飲酒する男性は大腿骨の首部 (1.3%)、脊柱部の BMD(1.4%)が高かった。そして問題飲酒歴のない人に比べ 2 回以上転倒するリスクが高かった(相対危険 1.59 (1.30-1.94))。臀部の総 BMD と骨折のリスクには変わりがなかった。</p> <p><b>結論:</b> 老年男性において、近々のアルコール摂取は高 BMD と関連があった。アルコール摂取と骨折リスクは明確でなく、軽度のアルコール摂取は転倒のリスクを下げるが、問題飲酒歴は転倒のリスクを上げた。</p>	